

エクストリームスポーツの競技人口に関する研究 —スケートボーディングにおける競技人口の増加に向けて—

A study on the population of the player in extreme sports -For the increase in the population of the player in Skateboarding-

1K10C138 北市 達広

主査 木村和彦 先生

副査 作野誠一 先生

【諸言】

日本においてエクストリームスポーツはあまり聞きなれないスポーツであるがアメリカなどでは大人気のスポーツである。しかし、現在の日本でエクストリームスポーツは煙たがれる存在であり公園では「スケートボード禁止」の看板を見かけることも少なくない。松岡（2011）⁴⁾は普及および競技力向上を目指して活動する環境に恵まれているとは言えない、いわゆるマイナースポーツは、「環境の悪化→競技人口の減少→競技力の低下→行政や企業のサポートの減退→環境の悪化」という負のスパイラルに陥っていると考えられると指摘している。上記のいずれかの要因が好転すれば良好なスパイラルができあがり現状が改善されと考えられる。本研究では潜在需要が大きいにもかかわらず、競技人口が極端に少ないスケートボードの競技人口の部分について調査することとする。

【目的】

スケートボードの競技大会に出場している人としていない人とのスケートボード参加動機の違いについてスケートボード参加者の年齢、参加頻度ごとのスケートボード参加動機と比較し、明らかにする。その上で、競技会に出場していない人を出場に導く方法を考察する。

【方法】

霜島（2010）¹⁾²⁾を参考にして12動機の項目からアンケート用紙を作りアンケートを行った。調査期間は2013年11月22日から11月24日の3日間で行い、調査場所としては東京と渋谷区にある宮下公園、世田谷区にある駒沢オリンピック公園スケートパーク、神奈川県藤沢市にある鵠沼海浜公園スケートパークとした。74人から回答をもらうことができた。詳細に関しては、11月22日の宮下公園において2人、同日の駒沢オリンピック公園スケートパークにおいて26人、11月23日の駒沢オリンピック公園スケートパークにおいて32人、11月24日の鵠沼海浜公園スケートパーク14人であった。分析方法は一元配置分散分析を使用し分析ソフトはIBM SPSS Statistics 21を使用した。

【結果】

アンケート調査からの分析で、年齢とスケートボード参加動機の関係について Achievement, Self-Actualization, Competition, Self-Esteem, Physical Fitness において有意性が確認され、スケートボード参加頻度とスケートボード参加動機の関係について Self-Actualization, Value Development, Social Facilitation, Skill Mastery において有意性が確認された。そして、競技経験とスケートボード参加動機の関係について競技経験がある人の方が Achievement, Self-Actualization, Value Development, Stress Reduction, Aesthetics, Competition, Risk-Taking, Self-Esteem, Affiliation, Skill Mastery, Physical Fitness の11項目において有意に高いという結果になった。

【考察】

スケートボード経験者で競技経験のある人とない人を比較した時に、競技経験のある人は Social Facilitation を除いたすべてのスケートボード参加動機 (Achievement, Self-Actualization, Value Development, StressReduction, Aesthetics, Competition, Risk-Taking, Self-Esteem, Affiliation, Skill Mastery, Physical Fitness) が大きいことが統計的に示された。この結果から、スケートボードの競技経験の有無と、スケートボードの参加動機は大きく関連している可能性が明らかになった。しかしながら、競技経験の有無と Social Facilitation に関連性が見つからなかったことからスケートボードを交流目的で行っているスケートボード参加者は交流を主な参加動機としている限りは競技大会に参加する可能性が低いことが明らかとなった。そして、スケートボードの競技経験ありの参加者の優位に高い動機の中で30代の参加者の Achievement, Self-Actualization, Competition, Self-Esteem の動機、週1回未満の参加者の Self-Actualization, Value Development, Skill Mastery の動機が有意に低いことが確認された。それゆえ、上記2つの対象者にそれぞれの動機を強く持たせることがスケートボードの競技大会参加者を増やすための第一歩の可能性があるとえよう。